



岡山大学法学部だより



※ 本メールは登録された方にお送りしています

第 87 号(2014 年 3 月 25 日発行)

発行：岡山大学法学部 学部長室

=====
本日卒業式を迎えられたみなさん、ご卒業おめでとうございます。

目次

○ 卒業生のみなさんへ

○ 卒業生のみなさんへ

昼間コース 204 名、夜間主コース 16 名、第二部 1 名、合計 221 名の卒業生のみなさん、卒業おめでとうございます。なかでも入学以来 11 年の歳月を費やして卒業を迎えられた最後の第 2 部生の方、こころよりお祝い申し上げます。

かつて高名な民法学者末川博先生は、人生を 3 分割し、第 1 期を周りの人に育ててもらふ時期、第 2 期を逆に恩返しをする時期、第 3 期を自分のための時期、とする人生 3 分割論とでも称すべき人生論を説かれていました。この人生論によりますと、みなさんはこれから第 2 期の恩返し期に入っていくこととなりますが、社会人 1 年生としてはまだまだ育ててもらふ必要性のある微妙な時期でもあります。そんな時期の大切な心構えとして、わたしは、他人の意見に耳を傾ける謙虚さを忘れないでほしいと思います。他人の意見に耳を傾けることは、もちろん他人の意見に左右されるということではありません。かえって自分の意見をしっかり持つことができるからこそ、他人の意見も聞くことができるのだらうと思います。

ところが最近、最高の言論の府である国会においてさえ、一方的に自らの言い分を主張するだけで、異なる意見に真摯に耳を傾けるふうにはとても思えない光景を日常的に目にします。同じような光景は、日本社会のほとんどの組織、大学組織においてすら見かけることがあります。

みなさんは、法学部で学び育まれた法学・政治学等の知識・知力を糧としながら、人生の第 2 期を生ききっていくこととなりますが、そのような法学・政治学を生み出した近代社会のおおもとは、個人の自律性、自律的な自・他の相互尊重にあります。他人の意見をキチンと聞くことは、実に、近代社会（その下にある近代の社会科学）のおおもとの延長線上に位置するものなのです。他人の意見に耳を貸さず前のめりになって突き進んでいくことは、自らの視角を狭めることにほかなりません。また、そのようにしてつくられた意見は、得てして独りよがりの偏狭なものになりがちです。

近代の諸科学の発達を促した自由と寛容の精神の下、他人の意見をよく聞き、広い視野を持ったスケールの大きな人になってください。自分のための第 3 期を悔いなくこころ静かに迎えるためにも。

法学部長 小山 正善